

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践
- ポジティブな行動支援の手法を生かした授業づくりの実践

西井川学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算練習などには、積極的に取り組んでおり、ある程度定着している。 ●問題や文章を読み取る力や書く力が不足している。 ●応用力に欠ける。	・教科書の内容や問題文の意図、グラフ等が示す意味などの読み取りが正確にできる。 ・「はかせタイム(朝の活動の時間)」に基礎的・基本的な内容(四則計算や漢字など)を反復学習し、習得できる。	・問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませ、学習内容を正確に読み取らせる。 ・練習とフィードバックを繰り返し、どれくらいできるようになったか、あとどれくらい練習が必要か等を自分で評価させる。 ・タブレット端末等を活用し、ドリル問題に取り組ませる。	・学習ガイド等を活用し、初読の問題になれることや、自分が何をどれくらい出来るようになったかを自覚させる。	・学習内容を正確に読み取るための工夫を年間を通して行った。 ・タブレット端末でドリル学習を積極的に行った。 ・ドリル学習などの成果をグラフなどに表し可視化することで、励みになったり、不十分な点に気づく児童が見られたりした。	・タブレット端末等を活用し、簡単に児童が自己評価できる体制を整える。 ・問題文を正しく読み取る力を育成するため、意識して読むことの大切さやポイントについて声かけ等の指導も合わせて繰り返し行う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○持っている力で一生懸命表現したり、解決したりしようとする意欲が感じられる。 ●表現力が十分ではなく、発表や説明が苦手な児童が多い。自分の考えを筋道を立てて記述したり話したりすることに課題がある。 ●学んだことを生活場面で生かしていない。	・自分の考えをもち、筋道を立てて友達に伝えることができる。 ・友達の意図を考えながら対話し、自分の考えを深めることができる。 ・学んだことを他教科や生活場面で活かすことができる。	・望ましい行動に注目し、できていることを認めたり、活躍する場を設定したりすることを通して、望ましい行動を増やしていく。 ・話し合いのひな型を活用することで話し合いの方法を理解できるようにする。 ・体験する場を設定し、学んだことを生活場面につなげる。 ・ICT 機器を効果的に活用する。	・書くトレーニングを行うことで、自分の考えをまとめたり分かりやすく表現したりする力を養う。	・共通のめあてをもち、全校でPBSに取り組むことで、学習規律等に成長が見られた。 ・学んだことを生活の場面につなげるような言葉かけをすることで、子どもの振り返りの文章から生活場面へのつながりを感じられる記述が見られた。 ・自分の考えを根拠を示しながら伝える機会を多く設けることができた。	・書くトレーニング等、引き続き自分の考えをまとめたり分かりやすく表現したりする力を養う必要がある。 ・PBSにおいて、掲示物等で目に見える評価を継続していくことは効果的であったため、評価の機会を大事にする。 ・タブレット端末の思考の場面での効果的な活用法を探る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習の提出は多くの児童ができ、与えられた課題には、きちんと取り組む。 ●問題を進んで追求していく力が弱く、最後まで続けて努力することに課題がある。	・自分達で学習規律を考え、それを協力して実践することができる。 ・家庭学習のてびきを活用し、意欲的に自主学習に継続して取り組むことができる。 ・進んで読書ができる。	・井川町小中学校で取り組む9年間を通した系統的な学習習慣を育てるとともに、自ら学ぶ学習習慣を目指した家庭との協働体制づくりをする。 ・週1回の読書の日、月1回のNoメディアデーやブックトークの日を設定し、読書に親しませる。 ・自主学習への働きかけとして、一人一人にあったアドバイスをを行い、主体性につなげる。	・ペアやグループワークの時間を設定することで、問題を進んで追求する力を育む。	・自分自身の読書を振り返ったり、友達と共有したりすることで、読書に親しむ態度が育ってきた。 ・家庭と連携し、Noメディアデーや自主学習に取り組む、成果は見られたが、課題も見つかった。	・児童の自主性を引き出す授業改善に取り組むことで、家庭学習での自主性につなげる。 ・個に合ったアドバイスをを行うなどして、自主学習への取り組みを継続する。 ・「自学賞」等の目標を設け、児童の意欲を高める。

令和4年度 学力向上ロードマップ

